

# CTM サーバでのディスク クリーンアップとディスク領域のメンテナンス

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[ディレクトリおよびファイルのメンテナンス](#)

[ログ ファイル](#)

[ONS15xxxService ログおよびトレース ファイル](#)

[コア ファイル](#)

[/var/tmp ディレクトリ](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Transport Manager ( CTM ) プラットフォームでのディスクのクリーンアップおよびディスク領域の維持についてのヒントを紹介します。CTM サーバを効率的に維持し、パフォーマンスを最大限にするには、不要なファイルを削除し、最低限のファイルのみ保持する必要があります。

注: 削除対象の特定のファイルが不明な場合は、[Cisco Technical Assistance Center \(TAC\)](#) ( [登録ユーザのみ](#) ) でサービス リクエストをオープンしてください。 [登録ユーザでない場合は、\[User Registration\]](#) に進んで登録を行った後、Cisco TAC へのサービス リクエストをオープンします。

## 前提条件

### 要件

CTM について十分に理解しておくことをお勧めします。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、CTM バージョン 4.6.x 以降に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく

必要があります。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 背景説明

CTM サーバ アプリケーションで最適なパフォーマンスを得るには、ログなどの一時ファイルをアプリケーションが書き込むための十分なディスク スペースがあることを確認します。このようなファイルのいくつかは、次の理由のためディスクに残されます。

- システム管理者がファイルを操作する必要がある。
- トラブルシューティングに必要な情報を Cisco エンジニアリング チームに提供するためにファイルが必要である。

## ディレクトリおよびファイルのメンテナンス

CTM サーバ上のすべてのファイル システムを定期的に検査することを強く推奨します。確認する必要があるディレクトリとファイルのリストを次に示します。

- [ログ ファイル](#)
- [トレース ファイル](#)
- [コア ファイル](#)
- [/var/tmp ディレクトリ](#)

これらの中には削除すべきもの、また保持すべきものがあります。ここでは、ディスクをクリーンアップするために必要な操作について説明します。これらのディスク操作を実行するには、root アカウントを使用して CTM サーバにログインする必要があります。

## ログ ファイル

CTM ログ ファイルの名前には `server.log` が含まれ、それに年、月、日が付加されます ( [図 1](#) を参照 )。CTM ログ ファイルはログ ディレクトリ内にあります。

CTM ログ ファイルにアクセスするには、次の手順を完了します。

1. ログ ディレクトリに移動します ( [図 1](#) の矢印 A を参照 )。
2. `ls -l` と入力して Enter キーを押すと、ログ ディレクトリ内のすべてのログ ファイルが表示されます ( [図 1](#) の矢印 B 参照 )。最新の 4 つのログ ファイルのみを保持することを推奨します ( [図 1](#) の矢印 C を参照 )。古いログ ファイルはすべて削除してください。たとえば `rm server.log.2005-11.13` コマンドにより、`server.log.2005-11-13` という名前のファイルが削除されます。 [図 1 – ログ ファイル](#)

## ONS15xxxService ログおよびトレース ファイル

問題をトラブルシューティングするとき、ONS15454NEService などのサービスのトレースを有効にするよう Cisco TAC エンジニアリング チームから要請される場合があります。このサービスは、`showctm` コマンド出力で表示されるプロセスの 1 つです。サービスのデフォルト ログレ

ベルは通常、マイナーに設定されます。すべてのサービスに「マイナー」ログレベルを設定した場合、各プロセスに対して2つのログファイルが存在します。CTM サーバが起動すると、CTM は直前のログファイルの名前を拡張子 .bak を付けて変更し、拡張子 .log の新しいログファイルを開始します。

たとえば、ONS15454NEService\* を確認する手順を次に示します。

1. /opt/CiscoTransportManagerService/log ディレクトリに移動します ( [図 2](#) の矢印 A を参照 )。
2. `ls -l ONS15454NEService?` コマンドを発行します ( [図 2](#) の矢印 B を参照 )。すべての関連ファイルが表示されます。ONS15xxxService ログファイルの旧バージョンは ONS15454NEService-1.log.bak になります ( [図 2](#) の矢印 D を参照 )。現在のログファイルは ONS15454NEService-1.log です ( [図 2](#) の矢印 C を参照 )。 [図 2](#) – サービス ログファイル .bak サフィクス付きの NS15xxxService ログファイルを削除できます。ログレベルを「トレース」に設定し、アーカイブ ログモードを有効に設定すると、ファイル拡張子に日時を含むトレースファイルもまた /opt/CiscoTransportManagerServer ディレクトリに表示されます ( [図 3](#) を参照 )。 [図 3](#) – /opt/CiscoTransportManagerServer ディレクトリ内のトレースファイル

何らかの CTM またはネットワークの問題をトラブルシューティングする必要がなければ、ログレベルを `minor` に設定しておくことを推奨します。監視を怠ると、トレースファイルがすぐに大量のディスク容量を消費し、CTM に障害が発生します。トラブルシューティングする場合のみ、ログレベルを `trace` に変更します。トレースをオンにしている間は、トレースファイルのサイズを監視してください。テストが完了したら、必ずトレースをオフにします。不要になった時点で、すべてのトレースファイルを削除します。 `rm` コマンドを使用すると、古いトレースファイルを削除できます。

## [コアファイル](#)

CTM サーバのプロセスが異常終了すると、クラッシュ時のプロセスのインメモリ状態を含むコアファイルがオペレーティングシステムによって書き出されることがあります。コアファイルを使用して、プロセスが停止した行、およびその時点での変数の値を確認します。コアファイルは /opt/CiscoTransportManagerServer/bin ディレクトリにあります。Cisco エンジニアリングチームは問題をトラブルシューティングするためにコアファイルを使用します。

次の手順を実行して、コアファイルにアクセスします。

1. /opt/CiscoTransportManagerServer/bin ディレクトリに移動します ( [図 4](#) の矢印 A を参照 )。
2. `ls -l core*` コマンドを発行してすべてのコアファイルを表示します ( [図 4](#) の矢印 B を参照 )。 [図 4](#) の矢印 C は、/opt/CiscoTransportManagerServer/bin ディレクトリ内にあるすべてのコアファイルを示します。 `rm` を使用すると、コアファイルを削除できます。たとえば、 `rm core.454NEService-1.10481` などです。 [図 4](#) – コアファイル

## [/var/tmp ディレクトリ](#)

システム管理者が確認する必要があるもう1つのディレクトリは /var/tmp ディレクトリです。CTM サーバに組み込まれている Cisco Transport Controller ( CTC ) アプリケーションが /var/tmp ディレクトリに CTC 関連ファイルを作成することがあります。たとえば `ctc-ELE*jar` ファイルなどですが、これを削除する必要があります。

ctc-ELE\*jar ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. /var/tmp ディレクトリに移動します ( [図 5](#) の矢印 A を参照 )。
2. `ls -l ctc-ELE*` コマンドを発行します ( [図 5](#) の矢印 B を参照 )。
3. 結果を確認し、`rm ctc-ELE*` コマンドを発行して、名前が ctc-ELE で始まるすべてのファイルを削除します。 [図 5 – /var/tmp ディレクトリ](#)

## [関連情報](#)

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)